

助成年度：平成 16 年度

[所属] 森林総合研究所 林業経営

[役職] 政策研究領域チーム長

[氏名] 奥田 裕規 (他計 8 名)

[課題]

木材の地産地消を通じた地域経済と環境保全の調和に関する研究

[内容]

1. 金山町の集落は、祭などへの若者の参加が新たに見られるようになるなど活気がある。これは、生活圏が新庄市内に広がるなど通勤・通学等に不便がないこともその理由の一つ。
2. 林家から大工、町民まで金山杉を媒介に、その繋がりが目に見える形で紡ぎあげられている。長伐期林業は、大山林所有者中心に定着した育林体系であるが、長伐期材が確実に売れるという状況のなかで、中小林家はこの流れに巻き込まれざるを得ない。金山林業の形成には、森林経営に長伐期材生産という共通の目標があること、町民が景観形成と家づくりに対して共通の価値観を持っていることが大きな役割を果たしている。
3. 小売製材は地域完結的な住宅供給システムの重要なパーツである。このシステムは、林家から消費者に至る一連の流れが比較的狭い地域内で完結するため、原材料・労働力ともに地域資源が多用され、付加価値が他地域に流出しにくい、地域社会・経済にとって望ましいシステムである。小売製材のマーケットが縮小する中で、中小建築業者との連携強化に取り組もうとする動きは、町並みづくり運動と親和性が高く、各地域でこのような運動に取り込むことができれば、展開の余地は大きく広がる。近年、最上地域で床面積が大きくなる傾向にあり、今後もこの傾向が続けば、金山杉の需要が増加し、金山杉の地産地消は進んでいくものと思われる。
4. 金山町の各産業が地域の産業全体に及ぼす影響力を示す影響力係数を算出した。金山町では係数の大きな上位 15 産業の中に、素材、製材・合板・チップ、住宅建築、特用林産物の 4 部門が含まれた。また、各産業が地域の産業全体から受ける影響力を示す感応度係数を算出し、同様に上位 15 産業をみた結果、育林、製材・合板・チップの 2 部門が含まれた。金山町においては木材関連産業が重要な役割を担っている。